

プロジェクトリーダー：金城学院大学 国際情報学部 遠藤麻里講師

事業実績調書

(1) プロジェクト名	変化した瀬戸のまち再発見
(2) プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）	
本プロジェクトは2021年度から2022年度まで行った「古写真で知る瀬戸の今昔」プロジェクトで得た成果を引き継ぎ、瀬戸の街並みの変化に加え、現在の瀬戸の街の良さについても触れる機会を提供することを目的としている。 2023年度は、前身プロジェクトでのデータおよびアプリを元に、謎解きゲーム形式のワークショップを開催した。 2024年度は、2023年度のワークショップからのフィードバックを元に、参加者がよりシンプルな形で楽しめる形式を模索し、瀬戸市街をすごろくのマップに見立てたゲーム形式のワークショップを開催した。参加人数は多くはなかったが、アンケートより満足度の高いワークショップとなり、瀬戸の街を巡りながら新しい発見を促す機会を提供することができた。	
(3) プロジェクト実施内容（※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	
・定例ミーティング 2024年4月～2024年7月までの間に4回実施（おおむね月1回） 場所：瀬戸市文化センター（文化課） ・すごろくイベント「古写真でタイムトラベル 瀬戸市すごろく大冒険」 日時 7月27日（土） 10時～12時 参加人数 5名、2組 瀬戸蔵4階会議室に集合し、アプリを用いてすごろくをしながら瀬戸市内を巡った。参加者には、協力店舗でのお茶・お菓子の提供を行い、また冊子を配布した。 PRは、「広報せと」への掲載、セトマチラジオ・ラジオ39「せと・アート情報」にて紹介いただいた。また、市内の小学校等へのチラシの配布を行った。	
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	
ワークショップとしての謎解きイベントは前身プロジェクトを含め4回目となった。 今回は、夏休み始めに開催し、夏休みの自由課題となることを目指したが、暑さもあり参加者が少なかった。参加人数の増加に繋がるPRは引き続き課題となった。 また、アプリを用いて謎解きをする、という形式についても、複数回のワークショップを行ったことで新鮮さが無くなっていることも参加者が増えない原因であったと思われる。 今後は、別の観点からの古写真の活用と市民への提供を模索する。	